

第75回 定例基礎棟セミナー

HLAによるネオセルフの生成と 自己免疫疾患

大阪大学 免疫学フロンティア研究センター
微生物病研究所
免疫化学分野

荒瀬 尚 先生



HLAはペプチドをT細胞に提示することで、免疫応答の中心的な役割を担っている。一方、最近、様々な自己免疫疾患のゲノムワイド関連解析により、特定のHLAアレルが最も強く疾患感受性に影響を与える遺伝子であることが明らかになってきた。したがって、特定のHLAアレルが疾患発症に関与する分子機構を解明することが重要である。本講義では、HLAがどの様に疾患発症に関与しているかを我々の新たな仮説とともに紹介する。

2020. 2/17 月 17:30～

会 場

シミュレーション講義室2
(教育医療棟7階)

本セミナーは、「大学院共通カリキュラム基本医科学講義」として
認定を受けており、受講により単位取得が可能です。

お問い合わせ:0282-87-2133 (内線:2269) 担当:公衆衛生学講座 中西